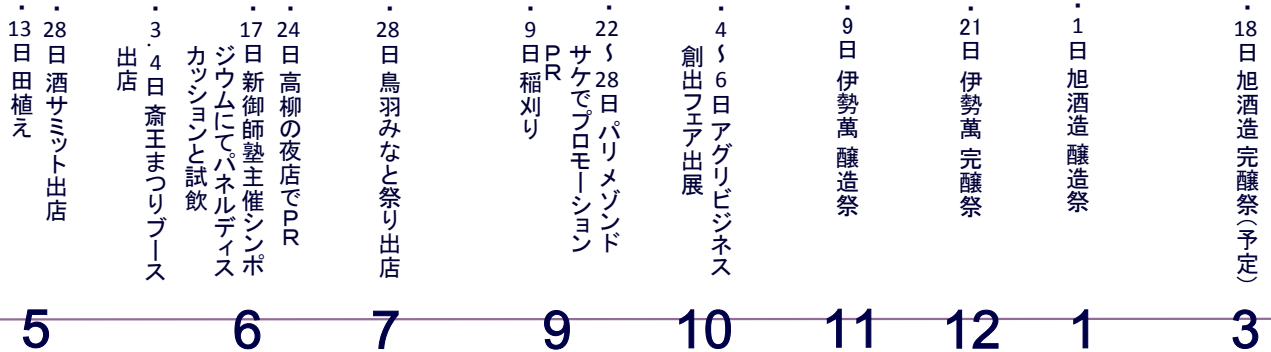


産学官連携日本酒プロジェクト

藪北彩音（現日1年） 大井理央（現日1年） 伊高恭平（神道2年） 秋山実愛（神道3年） 小島麻里衣（神道3年）
 林 雅也（教育3年） 小林 巧（現日3年） 田中勝陽（現日3年） 森 峻佑（現日3年） 近藤孝昭（現日3年）
 高尾智大（国史4年） 井口雄太（現日4年） 小谷野真衣（現日4年） 佐藤翔輝（現日4年） 中森一輝（現日4年）
 渡邊吏香（現日4年）



2017

5 6 7 9 10 11 12 1 3

◆今年度の活動を振り返って（成果と課題）

7月に昨年度作ったお酒を、PRL販売することが今年度の主な活動になりました。

酒サミット、齋王まつり、鳥羽の花火大会に出店。どのようにしたら神都の祈りの魅力をきちんと伝えられるかを試行錯誤しながらPR販売し、また、巫女のコスプレをしたりして楽しみながら地域の方々と交流できました。秋には、日本酒がブームになっているパリの、日本酒専門店メゾンドサケでのプロモーションに参加させていただきました。日本酒や、齋宮など日本の文化が海外に実際に発信されている場に学生として参加できたことは貴重な経験となり、海外から見た日本というのを考えることができました。

また東京で行われた、アグリビジネス創出フェアにも参加しました。企業に混じっての展示試飲だったので、深く興味を持ってくださる方が多かったです。学生それぞれが神都の祈りに対して色々な価値を持っているので、同じお酒を紹介するのにも一人一人の個性が出ました。

神都の祈りは全て地域で作られたお酒です。毎年毎年同じ味にする一般的な日本酒と違って、その年の気候、お米お水の状態で味に変化があり、ワインのように楽しんでもらえます。でするので、より地域のことをイメージして飲んでもらえると思います。来年度のお酒として先にできた、御裳濯川は今年のものとは風味が違いました。

今年の神都の祈りは、酒蔵さん、明和町などの地域の方々、先生、先輩方などたくさんの方が関わってできたお酒です。来年度もそれは変わりませんが、そしてできたありがたいお酒をPR販売するために学生が主体となってイベントを企画するなど、学生だからできることを考えていきたいと思っています。

特にアピールしたいポイント

神都の祈りは夏が終わった頃には完売していました。販売し出したのが春からなので、短い期間に多くの人に飲んでいただけたこととなります。来年度のお酒も多くの方に飲んでいただきたいのが一番の思いです。学生は主に、出来上がったお酒が飲み手に渡るまでの、商品としては一番大切でイメージが作られやすいところに関わります。地域の方と交流しながら、その役目をきちんと自覚し、神都の祈りのストーリーを魅力的に伝えていきたいと思っています。

実施主体様の声

明和町の地方創生事業の一環として産学官連携日本酒プロジェクトが始動し、初年度分は早々に完売するなど順調な取り組みとなりました。

このことは皇學館大学の学生や先生方のご協力のほか、学校法人としても全面的にご協力いただいた賜物かと思えます。

本プロジェクトは学生が自ら、酒米の生産から製造、販売までに携わったことの意義が大きく、今後も学生の斬新な発想を今後もご提案いただくことを期待しています。関係する多くの皆様に感謝申し上げるとともに、今後のプロジェクト取り組みを通じて、引き続き明和町の活性化につなげていただくことをお願い申し上げます。



活動実施主体：明和町防災企画課
 担当教員：千田 良仁(教育開発センター)